

新しい中山間地域の活用モデルを開発 ～中山間地域リノベプロジェクト～

地区概要



【能勢町天王地区】

大阪府豊能郡能勢町天王地区は大阪府最北端に位置し、標高約500m、57世帯(うち農家戸数48戸)、人口約130人の小さな集落である。同集落は、少子高齢化、過疎化が進み、美しい棚田や里山が失われつつあり、空き家も増加している。こうした中、農業振興や関係人口・交流人口の増加に向け、スマート農業の実証実験をはじめとする様々な取組みに取り組んでいる。

取組主体



R RITSUMEIKAN

- ・天王ナチュラルファーム
- ・立命館大学経営学部 植田ゼミ

取組内容・目標

天王ナチュラルファームと立命館大学植田ゼミが連携し、 新しい中山間地域の活用モデルを追求する

主な取組内容

多様なバックグラウンドを持つ大学生の強みを活かし、現地の方々と知恵を出し合いながら、中山間地域をいかにして魅力あふれる地域として描き出すことができるのかを検討する。

目標

- ・天王地区で取り組んでいるスマート農業の実証実験の成果から、中山間地域におけるスマート農業の有効性と課題について理解を深める。
- ・天王地区で力を入れている関係人口の増加に向けての試みが、地域の持続性において、どのような意味を持つのかを明らかにする。
- ・大学生である自分たち自身が関係人口の一部となるが、今回の活動をきっかけとして地域との関わり方にどのような意識の変化が生じたか自身の変化を振り返る。また、関係人口に含められる人々が今後地域とどのような関わり方を見出せるのかを検討する。



スケジュール

- 令和4年度：
- ・立命館大学経営学部植田ゼミによる、主にスマート農業に着目した現地調査、過去の取り組みの成果分析
 - ・天王ナチュラルファームおよび現地の方との交流企画による地域課題についての意見交換、農作業体験など